

畦畔のカバープランツ

「クリーピングベントグラス」の導入 2 年目の管理

福島県農業総合センター 浜地域農業再生研究センター

事業名 福島県営農再開支援事業
小事業名 営農再開に向けた作付・飼養実証
研究課題名 クリーピングベントグラスを用いた省力的な畦畔管理技術の実証(南相馬市)
研究者名 松木伸浩・矢ヶ崎泰海

I 実証技術の解説

1 要旨

畦畔の雑草管理の省力化を目的にクリーピングベントグラス(商品名:畦畔グリーン)を導入し、播種 2 年目に手除草、あるいは除草剤による補助管理を実施したところ、畦畔の 8 割程度を被覆する優占種となった。

- (1) 手除草区、除草剤区の冠部被度は、8 割程度で推移した(図 1、2)。無除草区はヨモギ、ヤブマメ等が繁茂し、7 月以降の冠部被度は 5 割を下回った。
- (2) 手除草区は、ヨモギ、シロツメグサ等の多年生雑草の除草作業時間に 56.0 時間/a かかった(表 2)。
- (3) 播種 2 年目の畦畔管理に要した資材費は、182 円/a であった(表 3)。

2 期待される効果

- (1) クリーピングベントグラスを導入する際の参考となる。

3 活用上の留意点

- (1) 南相馬市小高区で、クリーピングベントグラスの播種日 2017 年 9 月 4 日、施肥 N:0.2kg/a(2018 年 3 月 30 日、9 月 20 日)で栽培した。
- (2) 水田畦畔の場合は、選択性除草剤(2,4-PA 液剤(商品名:2,4-D 石原アミン塩))が利用できる。休耕田ではクリーピングベントグラスの登録除草剤はないので注意する。
- (3) 導入 1 年目の畦畔管理に要する作業時間(播種前の除草、播種)は 82 分/a、資材費(種子、除草剤)は 13,089 円/a である。
- (4) 本種は、斑点米カメムシ類の発生源となることがあるため、主食用水稲を作付けする際は斑点米カメムシ類の発生に留意する。

II 具体的データ等

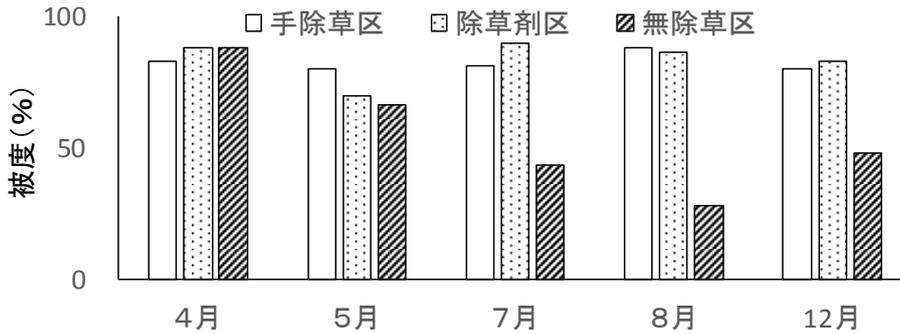


図1 クリーピングベントグラス播種2年目の冠部被度
播種: 2017/9/4、調査: 1×1m方形コドラートで各区3カ所×3反復。



図2 クリーピングベントグラスの被覆状況 (手除草区、2018/12/13)

表1 クリーピングベントグラス導入2年目の畦畔管理に要した作業時間(分/a)

区	手除草	除草剤 ^{注1}	追肥 ^{注2}	刈り払い ^{注3}	計	(時間)	備考
手除草	3340	0	2	20	3362	(56.0)	手除草回数: 5回
除草剤	0	39	2	20	61	(1.0)	除草剤散布回数: 3回
無除草	47	0	2	20	69	(1.2)	ヤブマメに被われたため手除草1回

注1)2,4-PA液剤(薬剤量: 100g/10a、散布液量: 100l/10a)。

注2)N:0.2kg/a。

注3)クリーピングベントグラスより草高が高くなったヨモギ、コウゾリナ等の刈り払いを実施。

表2 クリーピングベントグラス導入2年目の1aあたり資材費

資材名	金額(円)	内訳
除草剤	72	2,4-PA液剤10ml/a×3回
肥料	110	硫安1kg/a×2回
合計	182	

III 具体的データ等

1 執筆者

松木伸浩

2 実施期間

平成30年度

3 活用した技術のポイント(参考文献・資料等)

(1) 除染後の省力的畦畔管理技術マニュアル(農研機構ほか、2018)

(2) 畦畔のカバープランツ「クリーピングベントグラス」の導入実証(平成29年度 営農再開技術情報)